

環境活動家がイラク攻撃に反対する10の理由

環境問題と環境的公正に取り組む組織および個人として、私たちはアメリカ政府がイラクへの総攻撃に近づくとつれ懸念を高め、その動向を注視してきました。私たちはこの戦争に反対の声を上げ、人々に平和を守るために共に行動するよう呼びかけます。私たちは次の理由でイラク攻撃に反対します。

1. イラク攻撃によりおよそ50万人の命が奪われる可能性がある。犠牲者の大半は何の罪もない一般市民である。

イギリスの医療専門家組織であるメダクト（Medact）は2002年11月、26万人ものイラク人がアメリカの攻撃で瞬時に命を落とし、さらに20万人が飢餓や病気で亡くなるだろうと警告しています。国連は、この攻撃で生じる難民は90万人に及ぶだろうと危惧しています。

2. 戦争は人間の居住地と生活環境を破壊する。戦争は野生生物を殺し、土壌、大気、水を汚染する。その被害は何世代にもわたって続くことになるだろう。

国連環境計画（UNEP）は、1991年の湾岸戦争以降続いている環境破壊をまとめています。石油や化学物質そして放射能による汚染物質が、依然としてこの地域を汚染しています。6千万ガロン（約22万7千キロリットル）以上の原油がパイプから流出しました。海岸線はおよそ1,500マイル（約2,400キロメートル）にわたって、油と発ガン性物質で汚染されました。砂漠には石油が凝固してできた246個の「湖（オイルレーク）」が傷跡として残りました。700以上の油井が9か月間燃え続け、有毒な煙が太陽光を遮り地球全体を囲みました。

湾岸戦争の余波を受け、12か国以上が国連に環境破壊の賠償請求を行い、その総額は480億ドルにのぼりました。

3. アメリカのクラスター爆弾、サーモバリック爆弾、電磁爆

弾、劣化ウラン弾などは、大量破壊をもたらす無差別兵器である。

伝えられたところによると、1991年の湾岸戦争で米軍は100万発近い劣化ウラン弾を発砲し、その結果300トンの劣化ウランがクウェートとイラク南部にまき散らされました。陸軍環境政策研究所（The Army Environmental Policy Institute）によれば、体内に取り込まれた劣化ウランは「身体に重大な影響を及ぼす可能性がある」とのことです。WHO（世界保健機構）は「汚染された地域もしくはその周辺の子供たちが、遊んでいるときに劣化ウランにさらされる危険性が高い」と警告しています。子供たちがよくやるように手を口に入れると、汚染された土壌から高濃度の劣化ウランを取り込むことになります。1991年の戦争で放出された深刻な化学・放射性汚染の影響で、イラク南部のガンと白血病の発症率は6倍に増えました。

4. 爆弾は、不発弾や有毒化学物質で大地を汚染する。爆弾が隠れた化学・生物兵器（CBW）の所在を見極め、それらの兵器を適切に破壊することは不可能であり、爆破攻撃の結果、きわめて有害な兵器用化学剤が際限なく拡散されることになる。

サウジアラビアの外交政策顧問であるアデル・アル・ジュビエによれば、1991年のアメリカのイラク攻撃は「化学・生物兵器をひとつたりとも破壊しなかった」とのことです。それは幸運だったのかもしれませんが。湾岸戦争後の1991年3月10日、米軍はイラク南部のカミシヤで武器庫をいくつか破壊しました。5年後にアメリカは、この爆破によって兵器用化学剤が煙となって舞い上がり、10万人の米兵がマスタードガスやサリン神経ガスにさらされたことを認めました。

5. 石油のために戦争をしても、最終的には自滅する。

私たちの化石燃料を基盤とした経済は、大気を汚染し、私たちの肺を汚し、地球規模の気候変動をもたらしています。世界の石油消費量を減らす必要があります。もうこれ以上増やすべき

ではありません。石油の残存可採埋蔵量は間もなくピークを迎え、今世紀中には枯渇に向かう見通しです。限りあるエネルギー資源を支配するための戦争は、長い目で見れば国家の安全には寄与しません。石油に依存した経済を、クリーンで持続的かつ再生可能な燃料による技術に移行しなければなりません。

6. 先制攻撃は侵略行為である。

「先制攻撃」は国際法の規約、国連憲章に記されている世界平和の夢、そして多くの国際条約に述べられている環境保護の誓いに対する攻撃です。人口5百万人の都市を何百もの巡航ミサイルで攻撃することは、戦争犯罪、そして非人道的な犯罪です。

7. 侵略は報復を招く。

米中央情報局（CIA）の結論では、アメリカがサダム・フセインを政権からひきずり降ろすために侵略を始めなければ、フセインが挑発されて自己防衛手段として化学・生物兵器を使うことはありません。イラクを攻撃すれば、アメリカの都市は化学・生物兵器、および放射性物質兵器による攻撃を直接受ける可能性が高まると考えられます。

8. 増大する軍事費（私たちの石油依存経済に必要な燃料を入手するために必要）のため、重要な社会問題、教育、医療、環境の分野で必要な資金が不足する。

戦争（および戦後のイラク占領）には2千億ドルものコストがかかる予測されています。その間に経済が不安定になり失業者が増加し、一方で政府は環境問題への取り組みや人間の基本的ニーズを満たすための予算を削減します。

9. 軍事化および対テロ戦争は、アメリカ国内の自由を蝕む。

アメリカの反テロ法（USA PATRIOT Act: 通称愛国法）は、移民を迫害し、人種差別と恐怖を煽るために使われてきました。また、産業公害について重要なデータを市民社会に与えてきた、情報公開データベースの廃止を正当化するために、テロリス

トの脅威が利用されてきています。公害企業に説明責任を求める上で貴重な手段であった情報公開法（Freedom of Information Act）への締めつけも厳しくなっています。反テロ法は、物議をかもしような政策に異議を唱える合法手段を犯罪とみなし、その結果、正当な政治運動や環境運動が脅かされることになるのです。

10. アメリカはイラク攻撃に核兵器、つまり究極の大量破壊兵器を使用すると脅している。

2002年12月に発表されたアメリカの戦略レポートには、「アメリカ、海外駐留軍、友好国、同盟国に対して大量破壊兵器が使用された場合は、総力戦への突入も含め圧倒的な武力で応酬する権利がある」とあります。ブッシュ政権高官は、核による先制攻撃の脅威のために政策を変更することはないと述べています。

ブッシュ政権が2002年にまとめた「核態勢見直し（Nuclear Posture Review）」では、地面を貫通する「バンカーバスター」や5キロトンの「小型核兵器」（広島に投下された原爆の破壊力の4分の1）など、新型核兵器の開発が要請されています。

メダクトは、もしイラクで核兵器が使用されれば390万人に上る死者が出ると危惧しています。やがて放射性下降物「死の灰」が地球を覆い、さらに多くの人の命が縮む運命になるでしょう。